

過日御國地方の某氏、福澤先生と訪問のとき四方の方の談話中當日は先生服装の時に凡そ半身以上を脱ぐべ付けられる其事柄は全く浮世の男女交際などは男子の不貞状、婦人の無能力よりして遂に家庭を离れる事實を盛論したるものにして席上に本社の矢野由次郎氏が先生の所見と連記せしるえども福澤先生浮世談と題して數日の紙上に掲載すべく新川本の文明の段々を述するに連れて婦人論と云ふものがまかく取じて多く成る女子教育の爲めに常會を催すも成る女學校も時をもてた點から世間に現らるりますが其大本を尋ねて見れば兎に角に日本婦人は何處かが少し弱て女子相當の能力がない、男女同権の如きを議論する事は大に疑かる點の見る所で如何でなくして本の大原論はまつてどうり手近い所に在りはしないかと思はれる、と云ふのは今婦人に能力がない婦人はわれども筆者が如何にも損ぢや、だから如何しても婦人の地位をすんと進めて男女共に國を持ち家を經營せしむことを進ならなければならぬ其大本は只皆國にわる即ち女子教育の必要なる所以であると斯云ふ意味であるらし。

國道の足利・西澤先生と音楽
話中當日・先生開講の時にて、
おられたる其事柄は多く、浮世談
子の不行狀、婦人の無能力より
するの事實を論議したものに
野田太郎氏が先生の所見を追記
生浮世談と題して數日〇紙上に

新内閣組織の第

人達が其時に如何に又妙な事が起るやうな様であつた。ソコで以て其の如きを聽く者も興味あるやうな様であつた。ソコで以て其の如きを聽く者も興味あるやうな様であつた。

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

三